

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100880
法人名	医療法人天百合会
事業所名	グループホーム優嬉
所在地	鹿児島市広木2丁目48-1 (電話) 099-284-7123
自己評価作成日	令和2年11月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.C12:J13jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

■理念にあるように地域社会の一員として自分らしく穏やかに暮らせるように、利用者様に寄り添って支援しています。
 ■母体がクリニックにて、訪問診療・訪問看護との医療連携が図れています。訪問看護の協力の元、看取りも行いました。
 ■洗濯物干しや料理といった家事手伝いなどを、それぞれの利用者様がご自分の役割と思われることで、生きがいに繋げています。
 ■毎月、日々の様子をコメントや写真を載せてお便りにしています。家族様への相談や報告をこまめにおこなっています。
 ■法人内での内部研修・外部研修をおこない、月1回のミーティングでも認知症や身体拘束防止などの研修会を開いています。
 ■1日を通してメリハリのある生活や明るい雰囲気での環境作りを意識し笑顔からの生きがいに繋げて行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市役所谷山支所から数キロメートル離れた広木地区の閑静な住宅地の一角に、同法人のデイサービス事業所、有料老人ホームと隣接して平成24年に開設している。3事業者は防災訓練や職員研修、イベント等を合同で実施するなど、密に交流が図られ、同法人の全事業所とも毎月開催の担当主任会議で、情報の共有と協力体制を構築している。川向かいの幹線道路には、医療機関や薬局、金融機関、保育所、スーパーマーケット、個人商店等が立ち並んでいて利便性も良い。

地域密着型事業所として、地域との交流を大切に取り組んでおり、自治会に加入して校区の運動会や敬老会、夏祭りなどの地域行事へ参加し、施設見学やボランティアの受け入れ、友人知人の面会、保育所児童との触れ合い等を積極的に行っているが、新型コロナウイルスの感染予防のため、現在は園外との交流は自粛中である。

管理者及び職員は、法人の理念及びホーム独自の理念を玄関ホールに掲示し、朝礼で唱和も行って周知を図り、毎月、接遇目標も設定して利用者の尊厳や人格、想いを大切にしながら、利用者寄り添ったケアに努めている。日頃のケアの中や面会、電話、毎月のお便り等で利用者や家族の意向や要望等を把握し、ミーティングで内容を検討して改善を図っており、家族との信頼関係が築かれている。日々の生活も各利用者の心身の状態や生活習慣等に配慮し、意向に沿って趣味や特技など個別の支援も積極的に取り入れて、生きがいのある暮らしの支援に努めている。

管理者は、気軽に意見を言い合える信頼関係と協力体制を構築しており、日頃から意見や要望の把握に努め、個人的な事情にも配慮しながらサービスの向上や働きやすい職場環境の整備を法人代表とも協議しながら取り組んでいる。ケアに対する助言・指導やスキルアップを図る研修の実施、資格取得へのバックアップも日常的に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎月、理念に沿って接遇目標を立て、理念と接遇の意識付けを行っている。	利用者が地域や家族と触れ合いながら、その人らしい暮らしとなるように、毎月の接遇目標も設定して理念を共有している。理念及び接遇目標は目に付き易い玄関に掲示し、日頃から振り返りや意見交換等を行って理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域の役員からの行事のお誘いがある。体調などをみながら参加させて頂いている。こちら側の行事にも地域の皆様の参加や協力体制がある。	日頃の散歩や買い物、通院時には地域の人と挨拶や会話を交わし、校区運動会や夏祭り等のイベントにはスタッフとしても参加している。保育園児との交流や施設見学、ボランティア、地域の人からの相談等を積極的に受け入れ、円滑な交流に努めているが、新型コロナウイルス感染の予防のため、現在は園外との交流は控えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域住民からの相談や施設見学も随時対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を開催している。(R2.4～は郵送でのやり取り)利用者様の様子や支援報告、事故報告等を議題に出し、より良いサービス向上に繋げられるよう意見交換の場に生かしている。身体拘束適正化委員会を立ち上げ、運営推進会議の中で検討し、第三者も含めて身体拘束の情報共有や今後の再発防止に努めている。	会議は年6回定期的に開催し、民生委員や自治会長、行政職員等が出席して、ホームの現況や利用者の状況、ヒヤリハットや防災に関する報告を行い、委員からは感染症や身体拘束に関する質問や意見、地域の情報等が出されているが、本年度は一堂に会することを控え、資料を送付し電話で意見を集約して改善を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営等で不明な点は、状況に応じて市の担当者へ随時相談を行っている。運営推進会議では、長寿あんしんセンターの職員からのアドバイスも頂いている。	介護保険の更新や各種制度の申請や報告に関すること、運営や利用者に係る相談等を電話や窓口に出向いて行い、指導や助言を受けるなど、かねてから協力関係を築いている。行政主催の会合や研修会にも積極的に出席してサービスの改善に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しての研修を定期的実施し、職員間での意識の統一を図っている。身体拘束をしないために五つの基本的ケアを実践し、より良いケアの実現を目指している。開設から身体拘束ゼロを目指し、現在も実践できている。	身体拘束の廃止については、運営規定や利用契約書、重要事項に明記され、権利擁護を含めた法人主催の研修の実施や毎月のミーティング等で勉強して認識を共有している。日頃の業務の中や申し送り等でケアの振り返りや意見交換を行い、また、適正化委員会も年6回開催して拘束の無いケアに取り組んでおり、不適切な言葉遣いには、その都度、注意し合う等改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を定期的実施している。身体的虐待はもちろんだが、心理的・言葉・コミュニケーションによる虐待が無いように意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている方はいないが、権利擁護・成年後見制度の勉強会を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、重要事項説明書・同意書・運営規程・個人情報・ターミナル等の読み合わせを行い、分かりやすい説明にて理解と同意、交付ができるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、毎月の請求書の中に意見用紙を同封し、意見箱に投函しやすい工夫をしている。又、毎月お便りを発行し、口頭のみではなく書面での報告も心掛けている。	管理者および職員は、日頃のケアの中での会話や仕草、独自のサイン等で利用者の意向を把握し、家族からは面会や電話、家族会等で意見や要望を聞き取るように努め、また、毎月発行の園便りには「ご意見用紙」を同封するなど意見を述べやすいように工夫している。出された要望等はミーティング等で検討し、内容によっては法人本部とも協議してサービスの改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや、職員との意見交換、個別面談、ノート等を活用して意見を反映させている。	管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える信頼関係を構築しており、日頃の業務の中や申し送り、ミーティング時の意見や連絡ノートも活用し、必要に応じて個人面談も実施して、要望や意見の把握に努めて改善に繋げている。スキルアップを図る研修の実施や資格取得へのバックアップに努め、勤務シフトには有給休暇や個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。パースデー休暇や研修手当、資格手当など、福利厚生や給与体系も確立されて職員の就労意欲向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数や年2回の人事考課、目標設定や面談を行い、個々の仕事に対する意欲、取り組み等を適切に評価している。有給休暇やパースデー休暇資格や研修手当等の就業環境の配慮がなされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を作成し、法人全体の研修を行っている。毎月のミーティング後に部署内研修会を開いている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍のため、外部との交流は難しいので、同法人内で交流を図っている。訪問リハとは月1回、利用者様の状態把握も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様との事前面談で、希望や要望、困っていることなどの情報を得て、後日、本人様との面談で傾聴を行い、安心感に繋がるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との事前面談で、希望や要望を見極め、ここでの生活を安心・安全に過ごせるかしっかり話し合っている。場合によっては、他施設や他事業所への紹介も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、入居判定会を開催している。理事長や施設長、必要に応じて訪問看護や居宅支援事業所も参加して、家族様のニーズに沿えるように、安心感が持てる関係づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心・安全はもちろん、「本人様の主体性」を大切に自立支援に努めている。共に生活を過ごす馴染の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様へも行事や、個別レクリエーションへの参加等の声掛けを行っていた。目の前の利用者様だけでなく飾区様も含めたトータル的な支援が大切と考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの病院などへは、家族様の協力を得ながら継続が行えている。入居時は、できるだけ自宅から近い方を優先しているので、昔からの知人の面会があり、繋がりが継続できている。	入所時の聞き取りや日頃の利用者との会話、家族からの情報等で馴染みに関する情報を把握し、体調に配慮しながら散歩や買い物、通院、外食、地域行事、一時帰宅等を家族と協力しながら取り組み、家族や友人等との面談や電話・手紙の取り次ぎ等を積極的に行い関係の継続を図っているが、現在は新型コロナウイルス感染予防のため、面会や外出は自粛中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士の座席配置や、洗濯物たたみ、調理・盛り付けも一緒に楽しみながら行っている。1人ひとりに目配り・気配り・心配りで孤立感が無いように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここでの支援・生活が難しい場合は、当法人内の各部所が生活を継続できるように随時検討を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望・要望はもちろん、言葉にならないシグナルサインや表情・仕草・行動を読み取り、心の声に耳を傾けられるように取り組んでいる。家族様への報告・相談も随時行っている。	利用者の思いを日頃の会話や独自のサイン等で把握し、意向を大切に利用者主体の暮らしとなるよう家族の意見も聞きながら取り組んでいる。利用者が生きがいとする趣味（書道、読書、新聞読み、ぬり絵等）や草取りやお盆拭き、洗濯物たたみ等、家事の取り組みも残存機能や体調等に配慮しながら個別に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や情報提供書、ケアマネ等から情報提供を得ている。日々の関わりの中から情報収集に努めている。家族様へ本人様の「人生歴」を伺い、本人様の情報収集に努めニーズに沿ったサービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握なしでは、利用者様に沿った支援ができないので、日々の記録類、申し送りを行い、職員間での情報共有に努め統一したサービス提供に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成者が中心となり介護計画を作成している。ミーティング時に課題の検討、家族様とも相談・検討を行っている。毎月モニタリングを行いケアプランに反映させている。	利用者や家族の意向を把握し、主治医及び看護師の指示やモニタリング等での職員の意見を基に、残存機能や生きがいにも配慮した利用者主体の計画を作成している。ケアの実施状況は、申し送りノートやバイタル表、介護記録等で共有し、利用者の状態に沿った介護計画で日々改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子を介護経過記録・業務日誌・申し送りノート・バイタル表・水分表・排泄表といった記録類で情報共有を行い、介護計画の見直し時の情報として生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズや要望に沿って、個別での対応をとっている。帰宅願望の強い新規入居者様の夕食後のソワソワする時間にゆっくり話ができる時間を設けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の散歩でも、地域住人との挨拶や立ち話ができる関係性が築けている。地域に開かれた施設、施設が地域資源になれるように常に意識している。地域の方から花等の差し入れもある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族様の意向により、現在はすべて当法人母体のクリニックが主治医となっている。2週間に1度の訪問診療があり、通院の身体的負担も考慮している。主治医への信頼関係が大きい。	入所前の病歴を把握し、本人や家族が希望する医療機関での治療を支援しているが、殆どの利用者が法人母体の協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療や通院が実施され、訪問看護師の定期訪問（週1回）により利用者の健康管理や感染症予防の助言等が得られている。他科受診は家族及び職員が協力して同行し、協力医療機関とはオンコール体制を整備して連携を密に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>施設内に看護師はいないが、医療連携体制にて、週に1度、訪問看護が健康確認を行う。看護師と職員とのカンファレンスを行い情報共有を行っている。また、主治医との相談・報告・指示が図れている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時に病院側へ情報提供を行っている。また、退院時カンファレンスにて退院後の生活の相談・検討を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>些細な心身状態の変化の度に、家族様との相談を行っている。医療ニーズが高い時は、主治医との相談を行っている。重度化の際も当法人内でトータル的に支えられるように取り組んでいる。入居判定会議で家族様にターミナルケアについて説明し、考え方や意向を伺っている。</p>	<p>重度化や終末期の対応については対応マニュアルを整備し、利用開始時に説明して同意を得ており、以後、状況変化に応じて家族と話し合いを行っている。重度化した時点で主治医や家族と十分協議して、可能な限り家族が希望されるケアに取り組んでおり、これまで4件（本年度1件）の看取りを実施している。看取り終了後には振り返りや意見交換を行ってスキルアップや不安感の軽減を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に緊急時の体を兎を検討し、マニュアルを見直している。急変時は主治医、施設長、管理者報告、夜間はオンコール体制を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災避難訓練を実施。災害対策のマニュアルを作成、見直しを行っている。</p>	<p>年2回（うち1回は消防署立ち合い）夜間発生も想定した災害訓練を隣接の有料老人ホームやサービス事業所と合同で実施し、消火器等の取扱いも研修している。日頃から避難経路の確認や、災害に関する報道を基に意見交換するなど災害に対する意識を共有している。スプリンクラーや自動通報装置が設置され、災害発生時の食料、飲料水、介護用品等を備蓄している。近隣の住民との協力体制も構築しており、地域との合同訓練の実施を検討中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修を通して、接遇面の意識・改善・実践を行っている。家庭的な信頼関係を心掛けているが、ノックをするなどプライバシーの尊重や尊厳を持った言葉かけや対応をしている。	法人全体の研修やミーティング時の勉強会で理解を共有し、具体的な事例による意見交換等も行っており人格の尊重とプライバシー保護に努めている。利用者の心身の状態やこれまでの習慣等に配慮し、自己決定できるような語り掛けに努めながら利用者主体のケアに取り組んでいる。居室や浴室、トイレ等はプライバシーが確保された構造で、個人記録類も適切に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の心身状態を観察し、言葉のみではなくシグナルサインに気付き、自己決定ができるように声掛けや環境を意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日の流れはあるが、その日の体調や気分を把握し、入浴や食事時間、利用者様主体で1日の流れを希望に沿って支援している。『業務優先ではなく利用者様優先』を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	パジャマ更衣や、外出時の洋服を選んだりしている。髪を整えたり、髭剃りをするなどで、メリハリのある日常生活を送り心身機能の改善にも繋げている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に調理や盛り付けなど、個々の身体機能に合わせて支援している。	形態、栄養バランス、季節感等に配慮し、ご飯、汁物以外の副菜は隣接の有料老人ホームから調理した物が届いている。行事食や手作りのおやつ、家族との会食など、食事が楽しみなものになるよう工夫し、出前の握り寿司など利用者の希望にも可能な限り応えている。盛り付けや台拭き等を利用者も楽しみながら一緒に行っている。食事や水分の摂取量を利用者ごとに把握し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録を随時行っている。主治医・栄養士のもと、塩分制限、水分制限、栄養補助食品、治療食にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけ・見守り・介助によって、口腔内の清潔を維持している。夕食後は義歯洗浄を行っている。訪問歯科との連携も図っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表にて排泄パターンやトイレ回数の把握、安易なオムツ使用は避け可能な限りトイレ排泄を支援している。また、排泄時は羞恥心やプライド等の配慮も心掛けている。	利用者の排泄パターンや習慣を把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。心身の状況に応じた介護用品やケアの方法を、介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、便秘の予防に食物繊維や水分、乳酸菌飲料の摂取、運動量等に配慮し、主治医の指示により下剤も服用して改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向がある利用者様には、家族様の協力で乳酸菌飲料を提供したり、主治医との連携にて下剤の種類や適量を検討している。個々に合わせて、センナ茶の飲用や日々の散歩にて便通を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に週3回の入浴日を設けている。一人ひとりがゆっくり入浴してもらえるように心掛けている。	基本週3回の入浴を実施しているが、排泄時の汚染等には、その都度、清拭や入浴で清潔を保っている。予定外の入浴希望にも柔軟に対応し、好みの温度や時間、習慣に配慮してゆっくり楽しんでいただき、入浴後は皮膚疾患の軟膏塗布や水分補給を行っている。入浴をためらう利用者には、無理強いしないで、時間や職員の変更、声かけ等を工夫して意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の「適度な疲労感」を意識してレクリエーションや散歩を行っている。必要に応じて昼寝も促している。夜間不穏が強い方は、フロアでゆっくり話しながら安心して就寝できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカルテに綴り、常に確認できるようにしている。服薬の変更時には、業務日誌等に記載し職員間での情報共有に努めている。服薬による心身状態の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別レクリエーションの実施、「安心・安全」な生活の提供はもちろん、「趣味・生きがい」のある生活の提供を心掛けている。担当職員が中心になり個別レクに生かせるようにしている。家事手伝い等小さなことでも役割を持つことで、張り合いのある生活に繋げている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や花の手入れ等、屋外での活動も行っている。屋外での活動時はマンツーマンでの支援を行っている。	心身の状態や天候等に配慮しながら周辺の散歩や日光浴等を行い、墓参や一時帰宅、美容室での整髪、外食等を家族の協力を得ながら取り組んでいる。季節の花見、ドライブ、地域のイベントの見学なども計画的に実施して、利用者の楽しみとなっている。現在は新型コロナウイルス感染症予防のため、散歩以外の外出は控えてホーム内でのレクリエーションを工夫して気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人様・家族様と十分話し合い、必要に応じてこちら側で金庫預かりをしている。買物同行時は、自分で支払いができるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話希望時は事務所の電話を提供している。年賀状や残暑見舞いを家族様へ送れるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>平屋建ての床暖房、木材をふんだんに使用し、吹き抜け空間を取り入れることで開放的な空間作りをしている。「施設特有の臭い」を意識して換気を行っている。湿度や温度管理にも注意し、季節感を取り入れた貼り絵や飾り付けを行っている。</p>	<p>廊下や玄関、リビング等の共有スペースは、明るく開放感に満ちて随所に季節に応じた利用者の作品、絵画、写真等が飾られ、また、台所からは調理の音や匂いが伝わるなど、家庭的な雰囲気である。リビングにはテーブルセットやテレビ等が利用者の動線等に配慮して設置され、畳コーナーも設けてある。清掃や整頓、空調、衛生管理が徹底されて、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穏に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>座席配置や利用者様同士がくつろげるソファや畳コーナーを設置している。畳コーナーにて洗濯物たたみを利用者様同士が自然と行えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居心地の良い空間作りの一環として、できるだけ自宅から馴染の深い家具等を持ってきて頂くように家族様の協力を得ている。花や家族写真などを飾り、一人ひとりに合わせた居室を意識している。</p>	<p>フローリングの居室は掃出し窓の構造で明るく、余裕のある広さでエアコン、ベッド、タンスが備えてあり、利用者の状況を考慮しながら配置されている。利用者の意向を確認しながら整頓や清掃等を支援し、家庭同様に快適な生活となるように努めている。利用者は愛着のある家族写真や小物、使い慣れた寝具、テレビ、洋服掛け等を持ち込み、また、自分の作品や敬老の彰状等も飾って居心地の良い居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ふらつきのある方の居室に家具を並べ替え伝い歩きができるようにしたり、DIYで手すりを設置したり、ベット足元にセンサーマットを導入したりと安全面の配慮をしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない